

安全衛生だより第6号

1. 7月全国行事

- 1) 国民安全の日 7月1日
- 2) 全国安全週間 7月1日～7日

2. 安全・衛生・防災の心得 : 気象庁「線状降水帯」予報を6月から実施

気象庁では本年6月から、各地に深刻な豪雨災害をもたらす「線状降水帯」の情報発信を強化するとしています。同庁によると、'95～'09年の4月～11月に発生した261件の集中豪雨のうち、約3分の2にあたる168件で線状降水帯が確認されています。

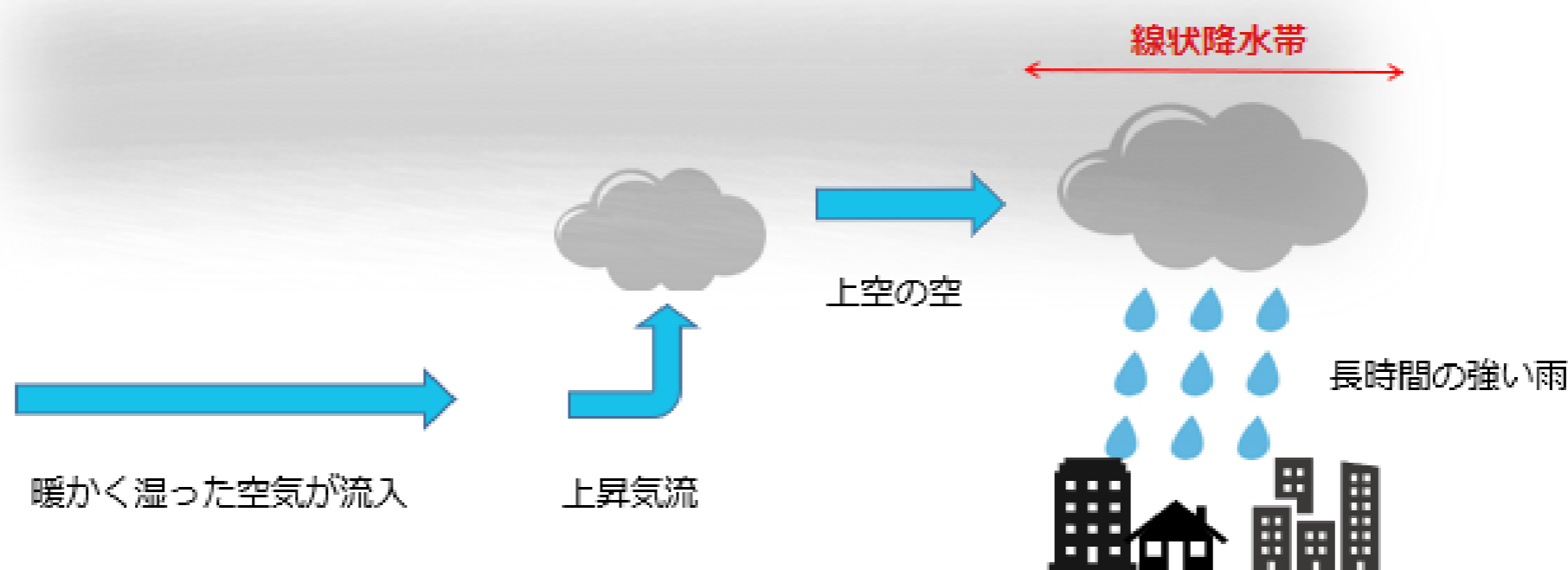
気象庁が発信する情報は、危険度が最も高い警戒レベル5（大雨特別警報など）の1段階前のレベル4（土砂災害警戒情報など）に相当するものです。線状降水帯は同じ場所で長時間にわたり、強い雨を降らせて災害の原因となるものですが、これまでは豪雨による被害などが起きた場合に気象状況を分析し、発生の事実や分析結果を発表するのみでした。

近年の豪雨の背景としては地球温暖化が指摘されており、気温が1度上昇すると、大気に含まれる水蒸気量が7%程度増加するとされ、「線状降水帯」が発生しやすいといえます。

気象庁では、各地で水蒸気量や気温、気圧等を測った上で、データを基にスーパーコンピュータで発生の可能性を計算するなどして予報の対象エリアを段階的に狭めていくとしています。

各事業場におかれましては、このような状況での業務や通勤での移動時に心がけることの周知及び、事業場での土嚢やポンプ等、水害対策用の緊急使用備品について今一度再確認をお願い致します。

線状降水帯が発生するしくみ



4つの条件すべてを満たした場合に注意報を発表する

- ① 3時間の積算雨量が100ミリ以上の面積が500km以上
- ② 降雨がある領域の形状が線状
- ③ 領域内の最大雨量が150ミリ以上
- ④ 土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当）の基準超過、または洪水警戒情報の基準を大きく超過

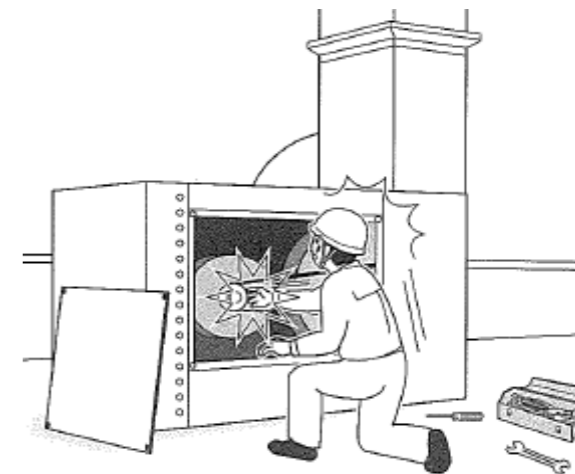
3. 他社 事故・災害事例から：停止直前のVベルトで指を切断

(1) 災害発生状況

工場屋上の大型排気ファンを点検するため、ファンのスイッチを切ってカバーを外し、ゆっくり回っているVベルトに手をかけて止めようとしたところ、その手がベルトとプーリーの間に挟まれて、右手第2・3指を挫滅し、手術で切断しました。

(2) 災害発生原因

- ①動いているファンのベルトを、つい手で止めようとしたこと。
- ②ゆっくり回っているため、危険を感じなかったこと。
- ③この排気ファンは、スイッチを切っても上昇気流等で長時間自転する状態だったこと。
- ④危険性を予知・予測して慎重に行動する習慣が身につけていなかったこと、など。



(3) 再発防止対策

類似災害の防止のためには、次のような対策の徹底が必要です。

- ①どんな場合でも、動いている機械等には絶対に手を出さないように徹底を図る。
- ②ファンカバーの取り外しは、ベルトが完全に止まってから行うよう規定し、徹底を図る。
- ③排風機の点検や修理の際、誤操作等でファンが駆動しないよう、スイッチに表示や施錠を行う他、ファンの自転が予測されるのでストッパーを設置する。
- ④日頃からKYTなど、危険性を予測し排除する活動の活性化を図る、など。

●環境安全部より：

当社、構内作業安全基準書（改訂第2版）の中でも、『作業2－5・設備機械等の安全基準と危険防止』を記載しておりますので併せてご参照下さい。

4. 当社 良い事例（抜粋）

●西日本技術センター（関西）

①上部からの伸縮式のソケット



②実験室2Fのクロム酸取扱場所隣のドア固定



5. ヒヤリハット事例

●事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	作業中
どこで	PL作業場
何をしている時に	完成品を取り出そうとしたときに
どうなった	下のバスケットがセット用の針金に引っ掛かり転倒した

以上